

令和2年度 美術《第3学年》年間指導計画

担当（ 鈴木 朝子 ）

美術科 教科の目標 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにして、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	
美術科 第1学年の目標 (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を育てる。 (2) 対象を見つけ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身につけ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を伸ばす。 (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に関する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。	

※【関】は「美術への関心・意欲・態度」、【発】は「発想や構想の能力」、【技】は「創造的な技能」、【鑑】は「鑑賞の能力」

月	単元名	学習内容	評価規準	評価資料
4 5	絵画 「鉛筆デッサン」 絵を描く基礎を学ぶ (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 形や影の特徴をとらえてスケッチする。 自分自身の手を見ながら、手の中にできる影、外にできる影、立体感などを書き表していく。 デッサンへの関心を持ち、自分なりの見方や感じ方を大切にしながらデッサンを楽しむ。 	【知】 <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちらながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 形や色彩などの特徴や印象などから全体を感じ、本質的なよさや美しさ、目的のものの意図や創造的な工夫や機能などを感じ取り、見方を広げている。 	A B C D E
			【思】 <ul style="list-style-type: none"> 形や影の特徴をとらえて自分なりのイメージでスケッチする。 	A B C D E
			【態】 <ul style="list-style-type: none"> デッサンに関心を持ち、自分なりの見方や感じ方を大切にしながらデッサンを楽しむ。 	A B C D E
6 7 9	絵画 「オリジナルのCDケース」 タイトルにレタリング (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> 最終学年としての記念になる作品を意識して制作する。 自分のテーマに従い、これまでの経験を生かし、装飾する中に創作を取り入れ製作する。 色彩による表現技能や用具の使い方を身に着け、作品のテーマを自分なりに、個性豊かに表現することができる。 	【知】 <ul style="list-style-type: none"> 多角的な絵画へのアプローチ、時代背景などからの関心を持って自ら意欲的に作品を味わうことができる。 自分の好きな作品について何が良いのかを自分の心情と照らし合わせながら読み解くことで、自分なりの作品の見方を理解する。 	A B C D E
			【思】 <ul style="list-style-type: none"> 表現したいイメージを持ち自分の表現意図にあう表現方法を考え工夫し、彩色などを効果的に考えオリジナル性のある表現を作り出すことができる。 	A B C D E
			【態】 <ul style="list-style-type: none"> 主題などを主にイメージを膨らませ、形や色彩の効果を生かし創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を生み出せる。 	A B C D E
10 11 12	鑑賞 「日本の宝を知る」 工芸作品を中心に日本の歴史にふれる (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 螺鈿や細木綱工などの歴史を辿りながら国宝について理由を辿りながら日本の美について学び、改めて日本の美術の歴史に理解する。 日本文化に触れ、日本の伝統・文化のよさや豊かさに気付き、その価値や意義を理解する。 	【知】 <ul style="list-style-type: none"> 日本文化に対し、歴史的観点や、当時の絵描きに思いを馳せ、関心を持ち、積極的に理解する。 	A B E
			【態】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の生まれ育った郷土や自國に誇りと愛着をもち、改めて他国の伝統や文化を理解し尊重することができる。 	A B E
1 2 3	木工芸 「ハンコケース」 (11時間)	<ul style="list-style-type: none"> テーマは自由とし、独創性のあるデザインについて考え制作する。 材料の生かし方、表現技法を理解し、独自の表現を工夫しながら、美しい表現を追究する。 印鑑ケースを通して、作品を「表現」する過程と出来上がった作品を飾る「鑑賞」の両側面に意識づけをする。 彫刻刀による細工を町のスケルズ 	【知】 <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性などから創作の順序などを考え、その表現の美しさなどを見通しを持って表現できる。 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさや、作品全体のイメージ、作り手の意図や願いなどを感じ取り、自分の価値意識をもって理解する。 	A B C D E
			【思】 <ul style="list-style-type: none"> 用途や機能、使用するものの木道を考えてレリーフにあったモチーフの選び方の創意工夫し構想を練る。 	A B C D E
			【態】 <ul style="list-style-type: none"> イメージをもちらながら自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 	A B C D E
1 2 3	篆刻 「自分の名前の印を作る」 (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> 卒業作品としての一つの作品。 自分の名前のデザインを考える。 二学期に製作したケースに作品を入れ、展示、鑑賞し、改めて作品について味わうことができる。 陽刻、陰刻について学んだ上で自分の文字やマークを考えさせるまた同時にレタリングとしてのデザインとしても考える。 篆刻彫刻刀を安全に扱い方を学ぶ。 作品に自分の想いを込め、興味をもって最後まであきらめずに制作することができる。 	【知】 <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性を主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。 自分の好きな作品について何が良いのかを自分の心情と照らし合わせながら読み解くことで、自分なりの作品の見方を理解する。 	A B E
			【思】 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や参考作品から発想げ、完成予想を見通しながら構想を練ることができる。 篆書体について学び、その文字の形の美しさや全体のバランスの取り方を参考に、印としての文字のデザインを検討している。 	A B C D E
			【態】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の想いを込めた作品を最後まであきらめずに制作しようとする。 石材の特徴を理解して、様々な道具を工夫して使い、丁寧に彫りを進めることができる。 材料や用具の特性を理解し、能率的・効率的な表現方法を試みる。 	A B C D E